

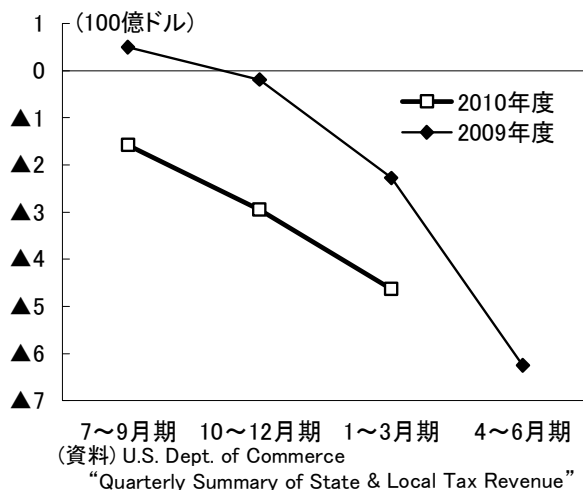
悪化続く米国州財政

～ 新年度予算編成は一段と困難に ～

- (1) 昨年初以来、米国経済は持ち直してきたものの、地方財政に改善の兆しは依然見当たらず。米国地方財政は一般に7月～翌年6月が会計年度のため、税収が既往最大に達した2008年度を基準に2009年度、2010年度の税収を7～9月期を起点にみると、10年度に入り、一段と悪化（図表1）。直近データの10年1～3月期でも改善の兆しなし。
- (2) 税目別にみると、主因は個人所得税の落ち込み（図表2）。次いで軟調な消費を反映した売上税、さらに企業所得税の減収。上場企業では業績改善が進展してきたものの、中堅・中小企業を含めた全企業ベースでみると、業績悪化に歯止めが掛かっていない現状が看取。
- (3) 州別にみると、税収悪化は、09年度にはカリフォルニア州やフロリダ州など、サブプライム問題に直撃された一部の州に限定されていたのに対して、10年度には大半の州が深刻な税収不足に直面（図表3）。
- (4) ARRA法による景気浮揚効果が今後、マイナスに作用すると見込まれるなか、各州の新年度予算の策定は一段と困難化する一方、歳出削減に伴うデフレ圧力が強まる懸念。

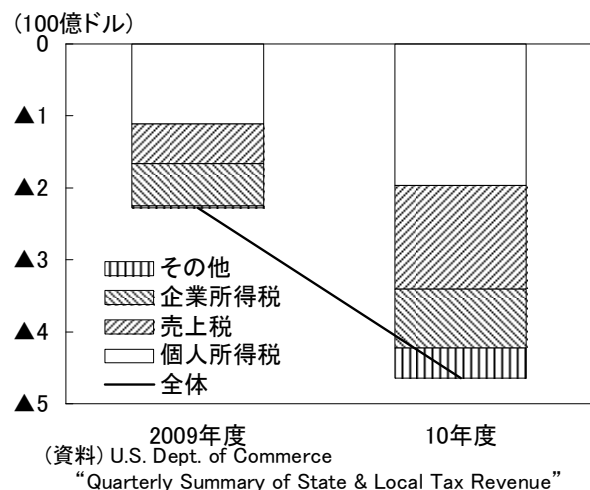
（図表1）米国州税収の推移

（7～9月期からの累計ベース、2008年度比）



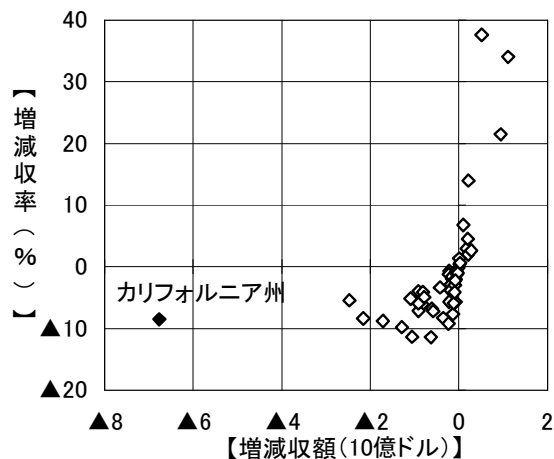
（図表2）米国州税収の主要税収別内訳

（7～9月期から1～3月期の累計、2008年度比）



（図表3）各州別税収増減収額と増減収率（7～9月期から1～3月期の累計、2008年度比）

＜2009年度＞



＜2010年度＞

